

平成 30 年度

人間生活学総合研究科教授内容

英語・英語教育研究専攻

東京家政大学大学院

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

(4) 英語・英語教育研究専攻(修士課程)

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備考 (シラバスページ)
英語教育分野	小学校英語教育特論	4	選	教授 小 泉 仁	中・高専 P1
	英語教育実践特論Ⅰ	4	選	教授 太 田 洋	中・高専 P3
	英語教育実践特論Ⅱ	4	選	教授 太 田 洋	中・高専 P5
	第二言語習得研究Ⅰ	4	選	准教授 田 頭 憲 二	中・高専 P7
	第二言語習得研究Ⅱ	4	選	准教授 田 頭 憲 二	中・高専 P10
	英語発表技能指導法演習	4	選	講 師 トム・エドワーズ	中・高専 P13
	英語受容技能指導法演習	4	選	講 師 ロバート・ジェイムス・ロウ	中・高専 P14
	英語教育課程特論	4	選	講師(兼任) 齋 藤 嘉 則	中・高専 P16
	英語教育評価特論	4	選	講師(兼任) 長 沼 君 主	中・高専 P18
英語教育リサーチメソッド	4	選	講師(兼任) 森 田 光 宏	中・高専 P20	
英語・英語文学分野	英語学特論	4	選	准教授 根 本 貴 行	中・高専 P22
	英語学研究	4	選	准教授 鈴 木 繁 幸	中・高専 P24
	英文学特論	4	選	教授 石 塚 倫 子	中・高専 P26
	米文学特論	4	選	教授 新 井 哲 男	中・高専 P28
				教授 原 惠 理 子	中・高専 P30
	英文学研究	4	選	教授 谷 田 惠 司	中・高専 P32
	米文学研究	4	選	准教授 並 木 有 希	中・高専 P34
	英米文化研究	4	選	教授 原 惠 理 子	中・高専 P36
異文化コミュニケーション研究	4	選	講師(兼任) 古 家 聡	中・高専 P38	
共通分野	英語論文技法演習	4	選	講 師 トム・エドワーズ	中・高専 P40
				講 師 ロバート・ジェイムス・ロウ	中・高専 P42
研究指導	特 別 研 究	4	必	教授 小泉 仁 新井 哲男 石塚 倫子 太田 洋 原 惠理子 谷田 惠司 准教授 鈴木 繁幸 田頭 憲二 根本 貴行	P44

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

授業科目名：小学校英語教育特論	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：小泉 仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本の英語教育の現状に関する総合的な理解を促進し、それらの現状を理論的、教育学的側面から考察することを通して英語教育の専門的知識を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>多様な専門書や論文に触れながら、主に次の内容を論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼少期の外国語習得の特徴、早期英語教育の目的 2. 近隣諸国の早期英語教育の現状 3. 日本の英語教育行政の歴史と現状 4. 社会的ニーズとしての早期英語教育と学校教育 5. 早期英語教育の理念と児童英語指導法の概要 <p>これらを通して小学校英語教育に関する理解を深め、この分野についての専門的知識を獲得し理論に通暁し、実践力を高める。他の英語教育系科目を履修する上での基礎となる「概論」的内容も多く扱うことになる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： Introduction of the course 「導入：英語学習・教授についての序論」</p> <p>第2回： English as a global language 「世界言語としての英語」</p> <p>第3回： Teaching English as a global language 「世界言語としての英語教育」</p> <p>第4回： English education in other countries 「諸外国の英語教育：韓国」</p> <p>第5回： Myths about teaching and learning foreign language 「英語教育・英語学習の神話」</p> <p>第6回： First language acquisition and second language acquisition 「母語習得と第2言語習得」</p> <p>第7回： Age and acquisition, and bilingualism 「年齢と言語習得、バイリンガリズム」</p> <p>第8回： Critical period hypothesis 「臨界期仮説について」</p> <p>第9回： Communicative competence 「コミュニケーション能力と早期英語教育」</p> <p>第10回： History of teaching English in Japan 「日本の英語教授法史」</p> <p>第11回： Workshop of the Palmer Method 「教授法① 語研オーラル・メソッド」</p> <p>第12回： Workshop of the Audio-lingual Method 「教授法② オーディオリンガル・メソッド」</p> <p>第13回： Workshop of present-day approaches 「教授法③ CLT, new hypotheses」</p> <p>第14回： Summary of methods and approaches 「指導法のまとめ」</p> <p>第15回： Summary of the semester 「前期のまとめ」</p> <p>第16回： Purposes of teaching English in Japanese schools 「小学校英語教育の変遷」</p> <p>第17回： Teaching foreign languages in formal education 「公教育での早期外国語学習の目的」</p> <p>第18回： Roles of the Japanese National Curriculum 「学習指導要領の役割」</p> <p>第19回： Roles of primary teaching materials: (aural and visual) 「教材の役割：音声と映像」</p> <p>第20回： Roles of primary teaching materials (realia) 「教材の役割：実物」</p>			

- | |
|---|
| 第21回： Roles of primary teaching materials (the alphabet, books) 「教材の役割：文字と図書」 |
| 第22回： Textbook authorization system and authorized textbooks 「教科書検定と検定教科書」 |
| 第23回： Varieties of primary English education 「小学校外国語教育の現状と多様性」 |
| 第24回： Policy of primary English education 「小学校英語の課題：行政的課題」 |
| 第25回： Problems of primary English education 「小学校英語の課題：内容、方法、指導者」 |
| 第26回： Principles of bridging primary and secondary English 「小3から中1まで：連携の理念」 |
| 第27回： Workshop of literacy in primary and secondary English 「小3から中1まで：文字」 |
| 第28回： Workshop of primary and secondary English grammar 「小3から中1まで：文法」 |
| 第29回： Summarizing Workshop of primary and secondary English 「小3から中1まで：総合」 |
| 第30回： Summary of two semesters 「後期、および学年まとめ」 |

準備学習：指定されたテキストや配付資料の分担箇所を読み、A4版1, 2枚に概要をまとめておく。

テキスト：H. D. Brown. 2014. *Principles of Language Learning and Teaching*.
6th ed. Pearson

参考書・参考資料等：
適宜指示する。

学生に対する評価：
授業内での発表40%、議論の参加状況30%、課題30%により評価、60%以上を合格とする。

授業科目名： 英語教育実践特論 I	単位数： 4 単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： 太田 洋
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>英語教育の様々なトピックについて、理論・研究面から多面的に理解を深めることができる。様々な授業実践を理論・研究面から検討し、自分の授業づくりに役立てることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>理論・研究と実践両面から英語教育の様々なトピックについて、これまで何がわかっている、何がわかっていないか、どのような課題があるのか理解を深める。そして理論・研究の結果を基に、これまでの実践を振り返り、どのような実践を行うことが望ましいのかを考察し、具体案を作る。「英語教育実践特論I」では授業づくりを支えるトピックについて扱う。授業は1つのトピックを3回分の授業時間をかけて行う。－ 1. 理論・研究に関する文献・論文を読む 2. 様々な教師により行われてきた実践を調べ、発表、考察する 3. 自分の実践にどのように生かすか考える－</p> <p>*この授業は「第二言語習得研究 I、II」と連携して、隔年開講で行う（平成30年度非開講）</p> <p>[学位授与方針]英語・英語教育研究専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。 ・研究の成果を生かし、高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（これまでの英語教育を学習者または教師の立場から振り返る）</p> <p>第2回：文献・先行研究購読（Principles of instructed language learning）</p> <p>第3回：文献・先行研究購読（Explicit and implicit knowledge / Declarative and procedural knowledge）</p> <p>第4回：文献・先行研究購読（Input）</p> <p>第5回：これまでの実践振り返り（Input）</p> <p>第6回：自分の実践への検討(Input)</p> <p>第7回：文献・先行研究購読（Interaction）</p> <p>第8回：これまでの実践振り返り（Interaction）</p> <p>第9回：自分の実践への検討（Interaction）</p> <p>第10回：文献・先行研究購読（Output）</p> <p>第11回：これまでの実践振り返り（Output）</p> <p>第12回：自分の実践への検討(Output)</p> <p>第13回：これまでの実践振り返り（Explicit and implicit knowledge / Declarative and procedural knowledge）</p> <p>第14回：自分の実践への検討（Explicit and implicit knowledge / Declarative and procedural knowledge）</p> <p>第15回：文献・先行研究購読（Grammar）</p> <p>第16回：これまでの実践の振り返り（Grammar）</p> <p>第17回：自分の実践への検討（Grammar）</p> <p>第18回：文献・先行研究購読（Vocabulary）</p> <p>第19回：これまでの実践の振り返り（Vocabulary）</p>			

- 第20回：自分の実践への検討(Vocabulary)
第21回：文献・先行研究購読(Individual differences)
第22回：これまでの実践の振り返り(Individual differences)
第23回：自分の実践への検討(Individual differences)
第24回：文献・先行研究購読(Motivation)
第25回：これまでの実践への振り返り(Motivation)
第26回：自分の実践への検討(Motivation)
第27回：これまでの実践の振り返り(Principles of instructed language learning)
第28回：自分の実践への検討(Principles of instructed language learning)
第29回：まとめ(1)(1年間のトピックを振り返って)
第30回：まとめ(2)(1年間のトピックの実践への応用)

準備学習：

- (予習) 授業でディスカッションする文献または実践研究を読み、まとめてくる(1時間)
(復習) 毎授業後にはレポートを書く(1時間)

テキスト：

- Ellis, R., & Shintani, N. (2014). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. Routledge.
- Lowen, S. (2015). *Introduction to Second Language Acquisition*. Routledge.
- Schmitt, N. (Eds.). (2010). *An introduction to applied linguistics*. (Second edition). Routledge.

参考書・参考資料等：

- 授業内で指示する(適宜、論文や文献を紹介する)

学生に対する評価：

- 課題、発表や討論への貢献、レポートの3点から評価をする
- 評価割合は、課題20%、発表や討論への貢献40%、レポート40%とする

授業科目名： 英語教育実践特論Ⅱ	単位数： 4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： 太田 洋
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>英語教育の様々なトピックについて、理論・研究面から多面的に理解を深めることができる。様々な授業実践を理論・研究面から検討し、自分の授業づくりに役立てることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>理論・研究と実践両面から英語教育の様々なトピックについて、これまで何がわかっているか、何がわかっていないか、どのような課題があるのか理解を深める。そして理論・研究の結果を基に、これまでの実践を振り返り、どのような実践を行うことが望ましいのかを考察し、具体案を作る。「英語教育実践特論Ⅱ」では、1単元、1時間の授業づくりに関するトピックについて扱う。授業は1つのトピックを3回分の授業時間をかけて行う。－ 1. 理論・研究に関する文献・論文を読む 2. 様々な教師により行われてきた実践を調べ、発表、考察する 3. 自分の実践にどのように生かすか考える－</p> <p>*この授業は「第二言語習得研究Ⅰ、Ⅱ」と連携して、隔年開講で行う（平成30年度開講）</p> <p>[学位授与方針]英語・英語教育研究専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。 ・研究の成果を生かし、高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（受けてきた、実践してきた授業を学習者・教師の立場から振り返る）</p> <p>第2回：文献・先行研究購読（英語教授法）</p> <p>第3回：これまでの実践振り返り（英語教授法）</p> <p>第4回：自分の実践への検討(英語教授法)</p> <p>第5回：文献・先行研究購読（文法—導入・練習）</p> <p>第6回：これまでの実践振り返り（文法—導入・練習）</p> <p>第7回：自分の実践への検討(文法—導入・練習)</p> <p>第8回：文献・先行研究購読（TBLT, Focus on form, Corrective Feedback）</p> <p>第9回：これまでの実践振り返り（TBLT, Focus on form, Corrective Feedback）</p> <p>第10回：自分の実践への検討(TBLT, Focus on form, Corrective Feedback)</p> <p>第11回：文献・先行研究購読（Listening）</p> <p>第12回：これまでの実践振り返り（Listening）</p> <p>第13回：自分の実践への検討(Listening)</p> <p>第14回：文献・先行研究購読（Speaking）</p> <p>第15回：これまでの実践振り返り（Speaking）</p> <p>第16回：自分の実践への検討(Speaking)</p> <p>第17回：文献・先行研究購読（Reading）</p> <p>第18回：これまでの実践振り返り（Reading）</p>			

- 第19回：自分の実践への検討(Reading)
第20回：文献・先行研究購読 (Writing)
第21回：これまでの実践振り返り (Writing)
第22回：自分の実践への検討(Writing)
第23回：文献・先行研究購読 (教科書の扱い方)
第24回：これまでの実践振り返り (教科書の扱い方)
第25回：自分の実践への検討(教科書の扱い方)
第26回：文献・先行研究購読 (評価、テスト)
第27回：これまでの実践振り返り (評価、テスト)
第28回：自分の実践への検討 (評価、テスト)
第29回：まとめ (1) (1年間のトピックを振り返って)
第30回：まとめ (2) (1年間のトピックの実践への応用)

準備学習：

- (予習) 授業でディスカッションする文献または実践研究を読み、まとめてくる (1時間)
(復習) 毎授業後にはレポートを書く (1時間)

テキスト：

- Ellis, R., & Shintani, N. (2014). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. Routledge.
- Lowen, S. (2015). *Introduction to Second Language Acquisition*. Routledge.
- Schmitt, N. (Eds.). (2010). *An introduction to applied linguistics*. (Second edition). Routledge.

参考書・参考資料等：

- 授業内で指示する (適宜、論文や文献を紹介する)

学生に対する評価：

- 課題、発表や討論への貢献、レポートの3点から評価をする
- 評価割合は、課題20%、発表や討論への貢献40%、レポート40%とする

授業科目名：第二言語習得研究I	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：田頭 憲二
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>第二言語習得に関する基本的知識を学び、第二言語習得における認知プロセスに焦点をあてることで、第二言語学習者の心理的メカニズムを理解するとともに、英語教育を効果的に進めていく上で必要となる知識や技能を身につけることを目標とする。</p> <p>[学位授与方針] 英語・英語教育研究専攻</p> <p>・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第二言語習得研究 (Second Language Acquisition, SLA) の概略を紹介し、今後の英語教育実践にどう生かしていくべきかについて、現在までに行われてきた先行研究などを例として具体的に考察していく。その際、実践的な課題を用いることで、具体的な教授場面を基に講義を進める。具体的には、英語または日本語で書かれた第二言語習得に関する基本的な文献を取り上げ、教員による講義、担当者による報告、全体討議等を行う。</p> <p>*この授業は隔年開講で行う(平成30年度非開講)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：第二言語習得研究とは</p> <p>第2回：第二言語習得理論の変遷 (1) 行動主義心理学と言語学習</p> <p>第3回：第二言語習得理論の変遷 (2) 行動主義心理学とオーディオリンガルメソッド</p> <p>第4回：第二言語習得理論の変遷 (3) 対照分析仮説</p> <p>第5回：第二言語習得理論の変遷 (4) 誤用分析</p> <p>第6回：第二言語習得理論の変遷 (5) 誤用分析：データ分析</p> <p>第7回：第二言語の発達過程 (1) 中間言語</p> <p>第8回：第二言語の発達過程 (2) 習得順序</p> <p>第9回：第二言語の発達過程 (3) 習得順序：データ分析</p> <p>第10回：第二言語の発達過程 (4) 発達順序</p> <p>第11回：第二言語の発達過程 (5) 異言語間影響</p> <p>第12回：第二言語の発達過程 (6) 異言語間影響：データ分析</p> <p>第13回：第二言語習得のアプローチ (1) インプット仮説</p> <p>第14回：第二言語習得のアプローチ (2) アウトプット仮説</p> <p>第15回：第二言語習得のアプローチ (3) インターアクション仮説</p> <p>第16回：教室SLA (Spada, 2013)</p> <p>第17回：教室SLA：明示的・暗示的学習の役割 (VanPatten & Benati, 2010)</p> <p>第18回：教室SLA：第二言語知識の種類 (Loewen, 2014)</p> <p>第19回：教室SLA：第二言語知識の測定 (Ellis, Loewen, & Erlam, 2006)</p> <p>第20回：教室SLA：指導の効果 (VanPatten & Benati, 2010)</p>			

- 第21回：教室SLA：インプットとアウトプットの役割 (VanPatten & Benati, 2010)
 第22回：教室SLA：インプット処理 (VanPatten, 2015)
 第23回：教室SLA：処理指導 (Shintani, 2014)
 第24回：教室SLA：Focus on Form (Ellis, 2016)
 第25回：教室SLA：TBLT (Ellis, 2009)
 第26回：教室SLA：CLIL (Lasagabaster & Sierra, 2009; Ting, 2011)
 第27回：教室SLA：訂正フィードバック (Lyster & Ranta, 1997)
 第28回：教室SLA：訂正フィードバック [language pedagogy] (Ellis & Shintani, 2014)
 第29回：教室SLA：訂正フィードバック [SLA] (Ellis & Shintani, 2014)
 第30回：総括 (第二言語習得研究の言語教育への示唆を中心に)

準備学習 (予習・復習等)

以下の文献の該当部分を事前に読んでおくことが望ましい (約1時間)

- ・白井恭弘 (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か—』岩波書店.
- ・大関浩美 (2010). 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版.

テキスト (適宜, 資料配布を行う)

- ・和泉伸一 (2016). 『第2言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える』. アルク.
- ・小柳かおる (2004). 『日本語教師のための新しい言語習得概論』スルーエーネットワーク.
- ・小柳かおる・峯布由紀 (2015). 『認知的アプローチから見た第二言語習得：日本語の文法習得と教室指導の効果』くろしお出版.
- ・馬場今日子・新田了 (2016). 『はじめての第二言語習得論講義—英語学習への複眼的アプローチ』. 大修館書店.

参考書・参考資料等

【参考書】

- ・Ellis, R., & Shintani, N. (2014). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. Routledge.
- ・Lightbown, P. M., & Spada, N. (2013). *How languages are learned* (4th ed). Oxford University Press (白井恭弘・岡田雅子 (訳) . (2014) . 『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店)
- ・Loewen, S. (2014). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

【参考資料】

- ・VanPatten, B., & Benati, A. G. (2010). *Key terms in second language acquisition*. Bloomsbury Academic.
- ・白畑知彦・村野井仁・若林茂則・富田祐一 (2009) 『英語教育用語辞典 (改訂版)』大修館書店.
- ・Richards, J. C., & Schmidt, R. W. (2010). *Longman dictionary of language teaching and applied linguistics* (4th ed). Routledge. (高橋貞雄他 (訳) (2013) 『ロングマン言語教育・応用言語学用語辞典』南雲堂)

学生に対する評価

議論への参加状況 (20%) , 課題発表 (20%) , レポート (60%) により, 総合的に判断する。

(なお, 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックを適時行う)

授業科目名： 第二言語習得研究II	単位数：4単位	選択 (中・高専 (英語))	担当教員名：田頭 憲二
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>第二言語習得に関する基本的知識を学び、第二言語習得における学習者の個人差に焦点をあてることで、第二言語学習者の心理的メカニズムを理解するとともに、英語教育を効果的に進めていく上で必要となる知識や技能を身につけることを目標とする。</p> <p>[学位授与方針] 英語・英語教育研究専攻</p> <p>・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第二言語習得研究 (Second Language Acquisition, SLA) における個人差要因を扱った研究の概略を紹介し、今後の英語教育実践にどう生かしていくべきかについて、現在までに行われてきた先行研究などを例として具体的に考察していく。その際、実践的な課題を用いることで、具体的な教授場面を基に講義を進める。具体的には、英語または日本語で書かれた第二言語習得の個人差に関する基本的な文献を取り上げ、教員による講義、担当者による報告、全体討議等を行う。</p> <p>* この授業は隔年開講で行う (平成30年度開講)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 第二言語に影響を及ぼす個人差要因(1) (VanPatten & Benati, 2010)</p> <p>第2回 第二言語に影響を及ぼす個人差要因(2) (Loewen, 2014)</p> <p>第3回 第二言語に影響を及ぼす個人差要因(3) (Ehrman, Leaver, & Oxford, 2003)</p> <p>第4回 個人差要因：言語学習の開始時期 (年齢)</p> <p>第5回 個人差要因：言語学習の開始時期 (臨界期仮説) (Ioup, Boustagui, Tigi, & Moselle, 1994)</p> <p>第6回 個人差要因：言語学習の開始時期 (化石化) (Han, 2013)</p> <p>第7回 個人差要因：言語適性 (Wen, 2012)</p> <p>第8回 個人差要因：言語適性テスト(Sasaki, 2012)</p> <p>第9回：個人差要因：作動記憶 (Ratiu & Azuma, 2014)</p> <p>第10回 個人差要因：言語適性と言語教授 (Robinson, 2002; Skehan, 1998)</p> <p>第11回：個人差要因：性別 (Sunderland, 2004)</p> <p>第12回 個人差要因：動機づけ</p> <p>第13回 個人差要因：動機づけ (自己決定理論)</p> <p>第14回 個人差要因：動機づけ (動機づけ方略) (Dornyei & Csizer, 1998)</p> <p>第15回 個人差要因：性格</p> <p>第16回：個人差要因：外向性／内向性</p> <p>第17回 個人差要因：曖昧さに対する寛容性</p> <p>第18回 個人差要因：外国語不安 (Horwitz, Horwitz, & Cope, 1986)</p> <p>第19回 個人差要因：外国語不安 (授業内) (近藤・楊, 2003; 元田, 2000)</p>			

- 第20回 個人差要因 : willingness to communicate
 第21回 個人差要因 : 学習スタイル／認知スタイル (真嶋, 2015)
 第22回 : 個人差要因 : 場独立／場依存
 第23回 個人差要因 : 信条
 第24回 個人差要因 : GLL (Griffiths, 2015)
 第25回 個人差要因 : 学習方略 (Oxford, 2011)
 第26回 個人差要因 : 方略指導 (Chamot, 2005)
 第27回 個人差要因 : 適性処遇交互作用 (Roehr, 2015; Wesche, 1981)
 第28回 : 指導における個人差の扱い [language pedagogy] (Ellis & Shintani, 2014)
 第29回 : 指導における個人差の扱い [SLA] (Ellis & Shintani, 2014)
 第30回 授業総括 (第二言語習得研究の言語教育への示唆を中心に)

準備学習 (予習・復習等)

以下の文献の該当部分を事前に読んでおくことが望ましい (約1時間)

- ・白井恭弘 (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か—』岩波書店.
- ・大関浩美 (2010). 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版.

テキスト (適宜, 資料配布を行う)

- ・小嶋英夫・尾崎直子・廣森友人 (編). (2010). 『成長する英語学習者 : 学習者要因と自律学習』. 大修館書店.
- ・林さと子・池上摩季子・小西正恵・島崎美登里・関麻由美・田近裕子, … 吉田真理子. (2006). 『第二言語学習と個別性 : ことばを学ぶ一人ひとりを理解する』. (言語学習の個別性研究グループ津田塾大学言語文化研究所, 編). 春風社.

参考書・参考資料等

【参考書】

- ・Dörnyei, Z., & Ryan, S. (2015). *The psychology of the language learner revisited*. New York: Routledge.
- ・Mercer, S., Ryan, S., & Williams, M. (Eds.). (2012). *Psychology for language learning: Insights from research, theory, and practice*. Palgrave Macmillan.

【参考資料】

- ・VanPatten, B., & Benati, A. G. (2010). *Key terms in second language acquisition*. Bloomsbury Academic.
- ・白畑知彦・村野井仁・若林茂則・富田祐一 (2009) 『英語教育用語辞典 (改訂版)』大修館書店.
- ・Richards, J. C., & Schmidt, R. W. (2010). *Longman dictionary of language teaching and applied linguistics* (4th ed). Routledge. (高橋貞雄他 (訳) (2013) 『ロングマン言語教育・応用言語学用語辞典』南雲堂)

学生に対する評価

議論への参加状況 (20%) , 課題発表 (20%) , レポート (60%) により, 総合的に判断する。
 (なお, 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックを適時行う)

授業科目名： 英語発表技能指導法演習	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： トム・エドワーズ
授業の到達目標及びテーマ Students will be able to discuss and explain how to best utilize writing and speaking tasks in the EFL classroom.			
授業の概要 This course will provide information about the theoretical background of and practical application of teaching EFL writing and speaking. Students will review current research on these topics as well as develop activities that can be used in the classroom.			
授業計画 第1回： Introduction to the course; overview of topics 第2回： Approaches to Teaching Writing 第3回： Blaauw-Hara. “Why Our Students Need Instruction in Grammar, and How We Should Go about It” 第4回： Grammar Teaching 第5回： Construction Grammar (Hinkel, Eli) 第6回： Feedback 第7回： Written corrective feedback (Bitchener, John and Ferris, Dana) 第8回： Student Projects and Discussion 第9回： Student Projects and Discussion 第10回： Motivation 第11回： DUAN Yuan-bing, Extrinsic and Intrinsic Motivation 第12回： Testing 第13回： Holistic vs. Analytic Rubrics 第14回： Testing practice 第15回： Portfolios and Assessment 第16回 Goals for speaking classes 第17回 Speaking and Listening contexts 第18回 Approaches for teaching speaking to beginners 第19回 Approaches for teaching pronunciation 第20回 Task-based Learning for listening and speaking classes 第21回 Student Presentations 第22回 Student Presentations 第23回 Types of spoken output 第24回 Correction and feedback methods 第25回 Vocabulary instruction and use			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第26回 Fluency vs. accuracy

第27回 Developing fluency

第28回 Types of assessment

第29回 Developing a speaking/listening syllabus

第30回 Review of semester material

準備学習：

Students will be expected to complete homework assignments and review the materials and topics of previous classes.

テキスト：

Nation, I.S.P., & Newton, Jonathan. Teaching ESL/EFL Listening and Speaking

参考書・参考資料等：

Any additional materials will be provided by the teacher.

学生に対する評価：

50% Homework assignments

50% End-of-semester paper

授業科目名： 英語受容技能指導法演習	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： ロバート・ジェイムス・ロウ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The purpose of this class is to study both the theoretical background and some practical approaches to the teaching of receptive listening and reading skills. In the first semester will study reading, looking first at theoretical approaches to reading before moving on to study practical approaches to the teaching of reading. In the second semester we will identify differences between the skills of reading and listening, study some of the theoretical approaches to listening that have been advanced, and finally look at practical activities for the teaching of listening.</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Lessons will take the form of discussions based on previously given readings. Each week the students will read a piece of material given to them by the teacher in preparation for the lesson. During the lesson they will summarise this material for the other members of the class, and then a discussion will take place on the basis of the readings.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction - what do you know about reading?</p> <p>第2回：Theoretical background and perspectives on the teaching of reading.</p> <p>第3回：Recognising words and spelling 1 - Phonics and phonemic awareness</p> <p>第4回：Recognising words and spelling 2 - Language-focused learning</p> <p>第5回：Intensive reading 1 - Main-idea comprehension</p> <p>第6回：Intensive reading 2 - Reading strategies</p> <p>第7回：Intensive reading 3 - Awareness of discourse structure</p> <p>第8回：Assessment: Plan and teach a ten minute intensive reading activity</p> <p>第9回：Extensive reading 1 - Introducing material</p> <p>第10回：Extensive reading 2 - Motivating and supporting reading</p> <p>第11回：Extensive reading 3 - Monitoring reading</p> <p>第12回：Assessing reading 1 - Questions</p> <p>第13回：Assessing reading 2 - Oral and written summaries</p> <p>第14回：Assessing reading 3 - Reading reports</p> <p>第15回：Assessment: Design a short extensive reading program, with an explanation of how it will be assessed.</p> <p>第16回：Introduction - what do you know about listening?</p> <p>第17回：Defining listening</p> <p>第18回：Debunking listening myths</p> <p>第19回：Approaches to teaching listening - Theoretical background</p>			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第20回: Types of instruction, intensive vs. extensive, interactive vs. autonomous

第21回: Input 1 - Preparing materials

第22回: Input 2 - Preparing tasks

第23回: Assessment: Select/design a piece of material for listening, and write a justification to support your choice with reference to theory and listening approach.

第24回: Listening activities 1 - Listening for perception

第25回: Listening activities 2 - Listening with short responses

第26回: Listening activities 3 - Listening with long responses and discussion

第27回: Assessing listening 1 - Assessment models

第28回: Assessing listening 2 - Creating assessments

第29回: Assessing listening 3 - Assessing proficiency

第30回: Assessment: Plan and teach a short minute listening lesson, this includes selecting and designing materials, writing a theoretical justification, and explaining how students' performance is assessed.

準備学習: Students will be required to read texts in advance of classes, as well as prepare to explain the texts they have read to other members of the class.

テキスト: Readings will be given throughout the course from various textbooks.

参考書・参考資料等: We will use a range of materials taken from textbooks and academic journals. These will be distributed throughout the semester.

学生に対する評価: Assessments will be given in the 8th and 15th week of each semester, and will involve materials planning and micro teaching. Both the mid-term and end-of-term assessments will be worth 20% of the grade for each semester, with the final 20% being a score for participation.

授業科目名： 英語教育課程特論	単位数： 4 単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： 齋藤嘉則
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>平成29年3月、小学校、中学校の新学習指導要領が告示された。そこでは、カリキュラム・マネジメントの重要性と必要性が強調されている。その目的のひとつは、日々の授業の質を高めることにあり、生徒の学習状況を適時、適切に把握しつつ、必要に応じて指導の在り方を改善、修正して、最終的に、生徒が指導目標に到達することが求められているのである。本特論では、カリキュラム（本特論では、「カリキュラム」と「教育課程」をほぼ同義で扱う）を適切に編成・実施・改善するために必須の実践的な知見と技能を学び、カリキュラム・マネジメントの能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1990年に設立された日本カリキュラム学会の最新の研究動向を捕捉しつつ、言語教育のカリキュラムの編成・実施・改善の要諦を確認する。理論面の検討は、テキストである“<i>Language Curriculum Design</i>”. の内容を素材として批判的に吟味、検討する。事例研究は、理論面と並行して小中高等学校など校種別の代表的な事例を分析しつつ、高度職業人として教育の現場で、指導的教育実践活動に携わることができる豊かな知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：「教育課程」、「カリキュラム」とは何か？</p> <p>第2回：「カリキュラム・マネジメント」とは何か？ーカリキュラム研究の動向</p> <p>第3回：Language Curriculum Design：An Overview</p> <p>第4回：Parts of the Curriculum Design Process</p> <p>第5回：Environment Analysis</p> <p>第6回：Needs Analysis</p> <p>第7回：Principles：Methods and Principles</p> <p>第8回：Principles：The Twenty Principles</p> <p>第9回：Principles： <i>Content and Sequencing</i></p> <p>第10回：Principles： <i>Format and Presentation</i></p> <p>第11回：Principles： <i>Monitoring and Assessment</i></p> <p>第12回：Principles：Using the List of Principles</p> <p>第13回：Principles：Tasks</p> <p>第14回：Principles：Case Studies</p> <p>第15回：Goals, Content and Sequencing</p> <p>第16回：Format and Presentation</p> <p>第17回：Monitoring and Assessment</p> <p>第18回：Evaluation</p> <p>第19回：Approaches to Curriculum Design</p> <p>第20回：Negotiated Syllabuses</p>			

第21回 : Adopting and Adapting an Existing Course Book

第22回 : Introducing Change

第23回 : Planning an In-Service Course

第24回 : Teaching and Curriculum Design

第25回 : Case Studies *Elementary School*

第26回 : Case Studies *Junior High School & High School*

第27回 : 新学習指導要領解説—小学校外国語活動、外国語科

第28回 : 新学習指導要領解説—中学校外国語科

第29回 : 現行（平成22年5月版）学習指導要領解説—高等学校外国語科

第30回 : 総括 : 英語教育課程研究の成果と課題—カリキュラムの動態的研究へ向けて！

準備学習 : 年間8回、第3土曜日に集中講義を行う（1日目を除き、2日目以降は1日、4コマ実施）ことを基本とするが、授業日は受講生との相談の上で決定する（基本的に土日に実施）。2日目以降は、事前にテキストの指定された箇所を通読の上、授業に参加すること。さらに、各回、授業中に課題が課されるので、電子メール等で期日まで報告が必要であり、毎回、授業冒頭でフィードバックする予定である。予習は、1コマに対して、180分、復習は90分が必要である。

テキスト :

Nation, L.S.P. & Macalister, J. (2010) *Language Curriculum Design*. Routledge.

Macalister, J. & Nation, L.S.P. (2011) *Case Studies in Language Curriculum Design*.
Routledge.

鈴木渉 編 (2017) 「実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導」 大修館書店

小学校学習指導要領解説外国語活動、小学校学習指導要領解説外国語科、中学校学習指導要領解説
(いずれも平成29年3月告示されたもの) 外国語編、高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編
(平成22年5月版)

参考書・参考資料等 : その都度、必要な時に文献の紹介を行う。基本的には、

馬場今日子、新多 了 (2016) 「はじめての第二言語習得論講義」 大修館書店

白井恭弘 (2008) 「外国語学習の科学 —第二言語習得論とは何か?—」 岩波新書

村野井仁 (2006) 「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」 大修館書店

Lightbown, P. & Spada, N. (2013) *How Languages are Learned*. (4th ed.) Oxford: Oxford
University Press.

学生に対する評価 :

集中授業終了後、毎回課される演習課題（含、最終課題）及び授業中のレポート発表と発言の3面から評価する。評価割合は、演習課題40%、授業中のレポート発表40%、発言20%とする。

授業科目名： 英語教育評価特論	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：長沼君主
授業の到達目標及びテーマ 言語能力評価に関する諸理論を学び、日本の外国語（英語）習得の教室における評価の活用と自律的学習支援の方策を考える。			
授業の概要 言語能力評価に焦点をあて、言語能力を伸ばすにはどうするかを考える。現在、世界各国で代替評価としての自己能力評価の利用が注目されつつある現在、ヨーロッパ共通言語参照枠(CEFR)などいくつかの代表的な言語能力発達段階の枠組みを取り上げ、その背後にある理念とともに日本の外国語（英語）習得環境における能力評価のあり方を考える。また、各種試験における多様化するコンピュータを用いた能力評価についても合わせて考えながら、日本の外国語（英語）習得の教室においてどのように評価を用い、能力を伸ばしていくか、また、自律的学習者をいかに育成していくかを議論する。本授業では英語教育学や言語習得理論の最新の知見を取り入れながら、高度職業人として教育の現場に理論を還元し、指導的教育実践活動ができるようになることを目指す。			
授業計画 第1回：言語能力とは何か？ 第2回：テストでは何を測っているのか—英検でわかるもの 第3回：テストでは何を測っているのか—TOEICでわかるもの 第4回：テストでは何を測っているのか—TOEFLでわかるもの 第5回：コンピュータを用いた能力評価—ライティング評価 第6回：コンピュータを用いた能力評価—スピーキング評価 第7回：ヨーロッパにおける言語能力フレームワーク—CEFR 第8回：アメリカにおける言語能力スタンダード—ACTFL 第9回：カナダにおける言語能力ベンチマーク—CLB 第10回：テストで測れるものと測れないもの？ 第11回：コミュニケーション能力とは何か？ 第12回：言語能力を伸ばすにはどのようにしたらよいのか？ 第13回：教員に求められる言語能力の資質とは何か？ 第14回：自己の言語能力を見つめ直す 第15回：中間まとめ 第16回：CEFR再考—日本の文脈に合わせた言語能力フレームワークの開発（CEFR-J） 第17回：論文購読1：Conflicting purposes in the use of can do statements in language education 第18回：論文購読2：Designing English curricula and courses in Japanese higher education: Using CEFR as a guiding tool 第19回：論文購読3：Using can do statements to promote reflective learning 第20回：論文購読4：Can do statements at the centre of involving learners in self-assessment,			

goal-setting and reflection learning cycle

第21回：論文購読5：Considering the use of can do statements to develop learners' self-regulative and metacognitive strategies

第22回：論文購読6：The European Language Portfolio and self-assessment: Using "I can" checklists to plan, monitor and evaluate language learning

第23回：論文購読7：The implementation of a Japanese version of the "European Language Portfolio – Junior version –" in Keio: Implications from the perspective of organizational and educational anthropology

第24回：論文購読8：Using "can do" lists in a class with elementary school teacher trainees

第25回：論文購読9：The range and triangulation of can do statements in Japan

第26回：ワークショップ1：Can do評価チェックリストの開発

第27回：ワークショップ2：Can do評価タスクの開発

第28回：ワークショップ3：Can do評価を取り入れたシラバスの開発

第29回：自律学習をいかに支援するか？

第30回：まとめ

準備学習：

前半の講義では毎回復習として日頃の授業実践を振り返り、授業で学んだことを活かしていくための内省を行う。また、後半の論文購読では担当を決めて発表を行うが、担当外であっても事前にテキストを読んできることが望まれる。最後のワークショップでは具体的に毎回Can-Doリストの作成等を宿題として課す。それぞれ1～2時間程度の予習・復習を想定している。

テキスト：

『日本と諸外国の言語教育におけるCan-Do評価—ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の適用』(マリア・ガブリエラ・シュミット、長沼君主、ファーガス・オドワイヤー、アレクサンダー・イミック、境一三編、朝日出版社)

参考書・参考資料等：

『プロフィシエンシーを育てる—真の日本語能力をめざして』(鎌田修・嶋田和子・迫田久美子著、凡人社)、『言語テストの作成と評価—あたらしい外国語教育のために』(チャールズ・オルダーソン、ダイアン・ウォール、キャロライン・クラッフ著、渡部良典訳、)

学生に対する評価：

レポート(40%)、発表(30%)、参加度(30%)なお、提出された課題や発表内容に関しては授業中またはメーリングリストを通してフィードバックを行う。

授業科目名： 英語教育リサーチメソッド	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：森田光宏
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>研究課題の設定方法およびその課題を検討するための研究手法を学び、英語教育研究を行う上で必要な知識や技能を体系的に身につけることを目標とする。</p> <p>[学位授与方針] 英語・英語教育研究専攻</p> <p>・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている</p>			
<p>授業の概要</p> <p>研究課題を設定し、その目的に合わせた研究手法を用いることは、どんな学問分野でも当然のことと考えられるが、英語教育という学際的な分野では、さまざまな課題と手法が用いられる。本講義では、研究課題の設定方法を学ぶとともに、その課題を適切に分析・検討する方法論について、基本的な知識を体系的に学ぶ。また、英語教育に関連した論文を取り上げ、その研究課題や手法を検討することで、自らの研究課題に対する適切な分析を行う方法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：リサーチメソッドとは</p> <p>第2回：研究課題の種類と設定方法</p> <p>第3回：データ収集の種類</p> <p>第4回：データ収集の妥当性と信頼性</p> <p>第5回：質的研究：概論</p> <p>第6回：質的研究の方法（1）：事例研究</p> <p>第7回：質的研究の方法（2）：インタビューと観察</p> <p>第8回：質的データの分析</p> <p>第9回：量的研究：概説</p> <p>第10回：基礎統計と推測統計</p> <p>第11回：量的研究の方法（1）：相関分析</p> <p>第12回：量的研究の方法（2）：処遇効果の検討</p> <p>第13回：量的研究の方法（3）：事前事後の比較</p> <p>第14回：量的研究の方法（4）：因子分析</p> <p>第15回：データの可視化、効果量、信頼区間、</p> <p>第16回：研究方法論についてのまとめ</p> <p>第17回：メタ分析概説</p> <p>第18回：メタ分析論文の検討（1）</p> <p>第19回：メタ分析論文の検討（2）</p> <p>第20回：リサーチメソッドの視点からの批判的文献レビューの方法</p> <p>第21回：批判的文献レビュー（1-1）：教員指定論文の検討</p>			

第22回：批判的文献レビュー（1-2）：教員指定論文の検討
 第23回：批判的文献レビュー（1-3）：教員指定論文の検討
 第24回：批判的文献レビュー（2-1）：受講者選択論文の検討
 第25回：批判的文献レビュー（2-2）：受講者選択論文の検討
 第25回：批判的文献レビュー（3-1）：受講者選択論文の検討
 第26回：批判的文献レビュー（3-2）：受講者選択論文の検討
 第27回：受講生による研究発表（1）
 第28回：受講生による研究発表（2）
 第29回：受講生による研究発表（3）
 第30回：総括

準備学習：

自分の研究と関連のある文献をピックアップし、批判的に読んでおくこと。（約2時間）

テキスト：（適宜、資料配布を行う）

- ・浦野研・亙理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹（2016）『はじめての英語教育研究』研究社。
- ・竹内理・水本篤（2014）『外国語教育研究ハンドブック—研究手法のより良い理解のために—（改訂版）』松柏社。

参考書・参考資料等：

- ・Gass, S. M. & Mackey, A. (2007). Data Elicitation for Second and Foreign Language Research. Routledge.
- ・Mackey, A. & Gass, S. M. (2011). Research Method in Second Language Acquisition: A Practical Guide. Wiley-Blackwell.
- ・白畑知彦・村野井仁・若林茂則・富田祐一（2009）『英語教育用語辞典（改訂版）』大修館書店。

学生に対する評価：

議論への参加状況（20%），課題発表（20%），レポート（60%）により，総合的に判断する。
 （なお，課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを適時行う）

授業科目名：英語学特論	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：根本貴行
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>言語研究には様々な枠組み（理論）があるが、その中から統語論の研究分野でどのような分析がなされているかを文献の講読を通して理解する。言語現象をもとに仮説を立てそれを検証していくという言語の科学的な研究方法に触れ、将来自分の言語分析の参考にする。また、英語教員にとって、自然言語としての英語がどのように扱われ、分析されているかを知ることは至極有意義なことである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>統語論研究を中心に言語を考察していく。言語現象の観察をもとに仮説を立て、検証することにより文法を構築していくという、現代の言語学における科学的な論証方法を学んでいく。理論的枠組みに基づくため、はじめに、これまでに発展してきた文法理論を概観する。その上で、いくつかの構文に注目し先行研究を再検証しながら言語事実を的確にとらえられる代案や修正案を提案していく。英語や日本語をはじめ、諸言語の言語現象を見ながら、言語そのものの普遍的な側面と各言語の媒介変数的な側面を概観し、人が享受する言語機能を研究していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：言語研究における生成文法</p> <p>第3回：生成文法の変遷</p> <p>第4回：普遍文法の考え方</p> <p>第5回：原理とパラメータの考え方</p> <p>第6回：句構造規則について</p> <p>第7回：句構造規則からX^{bar}理論へ</p> <p>第8回：文の構造－IPとCPの導入－</p> <p>第9回：単文と複文の構造</p> <p>第10回：格フィルターについて</p> <p>第11回：θ 役割について</p> <p>第12回：統語要素の移動を考える－疑問詞の移動－</p> <p>第13回：統語要素の移動を考える－名詞句の移動－</p> <p>第14回：繰り上げ構文</p> <p>第15回：前期のまとめ</p> <p>第16回：前期内容の復習－生成文法とは－</p> <p>第17回：統率について－格付与と名詞のステイタス－</p> <p>第18回：束縛理論Aについて－再帰代名詞の分布と解釈－</p> <p>第19回：束縛理論Bについて－代名詞の分布と解釈－</p> <p>第20回：PROの定理を考える</p>			

第21回：ゼロ格(null Case)について
第22回：that trace 効果を考える
第23回：動詞句削除、疑似空所化について
第24回：補文標識の選択を巡る議論—thatとthatの削除、およびifとwhetherの交換可能性—
第25回：there構文について理論の変遷を辿る
第26回：日英語の比較対照—主要部パラメータを考える—
第27回：日英語の比較対照—疑問詞移動のパラメータを考える—
第28回：受動文について規則
第29回：機能主義との比較対照および語用論との接点
第30回：一年間のまとめ

準備学習：学部の人に習った統語論について復習しておくことが望ましい。

テキスト：論文のコピー等を使用予定。

参考書・参考資料等：

金子捷 他 著『生成文法の新展開』研究社

Radford 著 *Analysing Sentences: A Minimalist Approach*, Cambridge Press

学生に対する評価：

出席と分担箇所要約発表、学期ごとのレポートを総合して評価する。

授業科目名：英語学研究	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：鈴木繁幸
授業の到達目標及びテーマ 語用論の概念理解と実践。			
授業の概要 <p>本講座では、語用論の概念研究と、それを通じたレトリック(修辞)に関し論理的に論証する事が求められる。</p> <p>語用論とは、Pragmatics is the study of speaker meaning.(Yule,1996)とあるように、発話者が使用する表現そのものよりむしろ、その表現の意図するところを研究する学問である。そして、その研究範囲は広範囲にわたっているが、本講座では<i>Advertising Language</i>(Tanaka,1994)を中心に精読することで、広告において使用されるレトリックを、語用論の視点から研究する。</p> <p>前期は主に和訳を行い、広告とレトリック、そして語用論に関する知識を深める。</p> <p>後期は、<i>Advertising Language</i>の講読を続けるとともに、前期に研究した知識を基に、自ら調査した広告の特徴について発表し、議論する。</p>			
授業計画 第1回 導入と年間計画解説 第2回 語用論とは(定義と歴史的研究－先行研究) 第3回 語用論とは(定義と歴史的研究－グライス理論とその発展) 第4回 語用論とその関連領域研究－社会言語学との接点 第5回 広告の定義を考える 第6回 レトリックを考える 第7回 含意とは 第8回 <i>Advertising Language</i> (Tanaka,1994)を読む - Advertising and communication 第9回 Advertising and communication -Semiotic approaches 第10回 Advertising and communication -linguistic approaches 第11回 Communication and inference 第12回 Ostensive-inferential communication 第13回 Standards in communication 第14回 Relevance and cognition 第15回 Implicatures 第16回 前期の総まとめと後期への展望 第17回 <i>Advertising Language</i> (Tanaka,1994)を読む - The determination of context 第18回 Loose talk 第19回 Covert communication 第20回 Advantages of engaging in covert communication 第21回 Covert communication in advertising			

第22回 Puns
第23回 Puns in advertising
第24回 ‘Nonsense’ puns
第25回 Puns and context
第26回 Puns and sexual innuendo
第27回 Metaphors –Lakoff and Johnson’s approach
第28回 Grice’s approach to metaphor
第29回 プレゼンテーション
第30回 Review

準備学習：テキスト以外の参考図書を含め、英文の多読を要求する。

テキスト：*Advertising Language*(Tanaka,1994, Routledge)

参考書・参考資料等：

Pragmatics(Yule,1996, Oxford)

学生に対する評価：

講読の正確さ、発表の論理性を中心に評価します。

授業科目名：英文学特論	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：石塚倫子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>シェイクスピアの原文を読めるようになること、そして作品のテーマを分析する力を養うこと、さらにシェイクスピアの背景となる社会状況を知り、コンテキストを踏まえた解釈ができるようになること、の3点を到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義においては、イギリス近代初期の社会、政治、宗教、経済、歴史、文化を視野に入れながら、シェイクスピア作品を取り上げ、さまざまな解釈の可能性を探る。取り上げる作品は、悲劇、喜劇の各ジャンルからそれぞれ1作品を選び、伝統的な批評史を踏まえながら、現代におけるシェイクスピア解釈につなげて考察する。総合して学位にふさわしい学識・能力を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに。一年の計画と受講の仕方、成績評価などオリエンテーションを含めた説明。</p> <p>第2回：シェイクスピアとはどんな人物か——文学史上の位置づけ</p> <p>第3回：エリザベス朝のイングランド(1)——政治</p> <p>第4回：エリザベス朝のイングランド(2)——社会</p> <p>第5回：エリザベス朝のイングランド(3)——文化</p> <p>第6回：生誕地ストラットフォードとシェイクスピア</p> <p>第7回：ロンドンに出てからのシェイクスピア(1)——1594年までのロンドン</p> <p>第8回：ロンドンに出てからのシェイクスピア(2)——宮内大臣一座</p> <p>第9回：ロンドンに出てからのシェイクスピア(3)——国王一座</p> <p>第10回：ロンドンの劇場(1)——演劇の発生と発達</p> <p>第11回：ロンドンの劇場(2)——演劇の成熟</p> <p>第12回：ロンドンの劇場(1)——バンクサイドの発達</p> <p>第13回：ジェームズ一世王と劇場の変化</p> <p>第14回：引退とその後の演劇界</p> <p>第15回：前期のまとめ、レポートの解説</p> <p>第16回：シェイクスピアの作品のジャンル</p> <p>第17回：シェイクスピアの悲劇(1)——4大悲劇とは何か</p> <p>第18回：シェイクスピアの悲劇(2)——『ハムレット』のあらすじ</p> <p>第19回：シェイクスピアの悲劇(3)——『ハムレット』の名場面を読む</p> <p>第20回：シェイクスピアの悲劇(4)——『ハムレット』の批評史</p> <p>第21回：シェイクスピアの悲劇(5)——『ハムレット』の上演史</p> <p>第22回：シェイクスピアの悲劇(6)——『ハムレット』のテーマを考える</p> <p>第23回：シェイクスピアの喜劇(1)——『夏の夜の夢』のあらすじ</p> <p>第24回：シェイクスピアの喜劇(2)——『夏の夜の夢』の名場面を読む</p>			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

- 第25回： シェイクスピアの喜劇(3)——『夏の夜の夢』の批評史
第26回： シェイクスピアの喜劇(4)——『夏の夜の夢』の上演史
第27回： シェイクスピアの喜劇(5)——『夏の夜の夢』のテーマを考える
第28回： その後のシェイクスピア受容——舞台、映画のシェイクスピア
第29回： 日本におけるシェイクスピア
第30回： 一年のまとめ。レポートのテーマの整理。

準備学習：

毎回、指定した範囲をよく予習（2～3時間程度）してくること。発表担当者はハンドアウトを人数分用意すること。（1時間程度）

テキスト：

未定（年度初めに指定する）

参考書・参考資料等：

授業時に随時、提示する

学生に対する評価：

平常点、レポートを各40，60%で評価 レポートは返却時に詳しく採点詳細を指導・説明する。

授業科目名：米文学特論	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：新井哲男
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>アーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Hemingway) の文体や特徴を探り、作家を理解するとともに、作品を通して人間の生き方について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第一次世界大戦後に活躍した「失われた世代 (Lost Generation)」と呼ばれる作家たちの中で、代表的な作家とされる「アーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Hemingway)」について、できるだけたくさんの作品を細かく読みながら、作家の特徴を探るとともに、作品を通して人間の生き方について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：第1次世界大戦後の1920年代のアメリカ社会についての概説と、いわゆる「失われた世代 (Lost Generation)」と呼ばれる作家たちについて、その特徴を概説する</p> <p>第2回：アーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Hemingway) の生涯について概説する</p> <p>第3回：“Indian Camp”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第4回：“The Doctor and the Doctor’s Wife”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第5回：“The End of Something”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第6回：“The Three-Day Blow”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第7回：“The Battler”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第8回：“A Very Short Story”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第9回：“Soldier’s Home”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第10回：“Mr. And Mrs. Eliot”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第11回：“Cat In the Rain”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第12回：“Out of Season”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第13回：“Cross-Country Snow”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第14回：“Big Two-Hearted River”について、作品に沿って考察を加える</p> <p>第15回：<i>In Our Time</i>について、まとめの考察を加える</p> <p>第16回：前期の復習を兼ねて、ヘミングウェイの短編小説の特徴を考察する</p> <p>第17回：“The Short Happy Life of Francis Macomber”の作品導入部の考察をする</p> <p>第18回：“The Short Happy Life of Francis Macomber”の作品前半部分の考察をする</p> <p>第19回：“The Short Happy Life of Francis Macomber”作品後半部分の考察をする</p> <p>第20回：“The Short Happy Life of Francis Macomber”のまとめの考察をする</p> <p>第21回：<i>The Old Man And the Sea</i>の作品導入部の考察をする</p> <p>第22回：<i>The Old Man And the Sea</i>で老人が海に出るまでの部分の考察をする</p> <p>第23回：<i>The Old Man And the Sea</i>での老人の大魚との戦いの仕方と老人の心についての考察をする</p> <p>第24回：<i>The Old Man And the Sea</i>で老人が大魚との戦いを終えた後のサメとの戦いについて考察をする</p>			

る

第25回： *The Old Man And the Sea*で老人が陸地に帰港した後の作品部分について考察する

第26回： *The Old Man And the Sea*の作品全体についてまとめの考察をする

第27回： 中編”The Snows of Kilimanjaro”と他の短編小説について考察する

第28回： *The Sun Also Rises*について考察する

第29回： *A Farewell to Arms*及び*For Whom the Bell Tolls*について考察する

第30回： 遺作を含め、ヘミングウェイについてまとめの考察をする

準備学習： 予め作品を読み、内容を理解し、作品の論点を整理して授業に臨むこと。

テキスト：

Ernest Hemingway, *In Our Time*, (Charles Scribner’s Sons), *The Old Man and the Sea*, (Charles Scribner’s Sons)

参考書・参考資料等：

授業時にその都度紹介する

学生に対する評価：

授業中の発言内容及びレポート

授業科目名： 米文学特論	単位数：4 単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：原恵理子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1) 現代アメリカ文学を読み解くために文学・文化批評理論の知識を理解・修得することができる。</p> <p>2) 1960年代以降、アメリカ合衆国で展開された政治的・社会的運動と文学の相互関連性に注目して、社会的表象装置としての文学について考察できる。</p> <p>3) とくにフェミニズム運動、人種的マイノリティや性的マイノリティの権利獲得運動を背景に創作活動を展開したアジア系アメリカ文学を検証して、文学表象の政治性における問題点を明らかにできる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>20世紀のアメリカ文学作品のテーマと表象のポリティクスを読み解くために、国内外における文学・文化批評理論の先行研究について学び、議論する。アジア系アメリカ文学作品におけるアメリカニズムの表象について検証するために、時代背景や社会を考察すると同時に、人種・民族・エスニシティ・階級・ジェンダー・セクシュアリティなどの観点からアイデンティティ・ポリティクスの諸相を浮き彫りにして、文学表象の政治性を読み解く方法を身につける。</p> <p>(学位授与方針) 英語文学に関する研究能力を有した視野の広い総合力を持った人材の養成を目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに——20世紀アメリカ文学表象の政治性を読み解く</p> <p>第2回：現代アメリカ文学・文化批評理論の先行研究を読む その1</p> <p>第3回：現代アメリカ文学・文化批評理論の先行研究を読む その2</p> <p>第4回：アジア系アメリカ文学・文化批評理論の先行研究を読む その1</p> <p>第5回：アジア系アメリカ文学・文化批評理論の先行研究を読む その2</p> <p>第6回：『アジア系アメリカ系アメリカ文学——記憶と創造』を読む</p> <p>第7回：『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』を読む</p> <p>第8回：日系アメリカ文学・文化の政治学</p> <p>第9回：『日系アメリカ文学——三世代の軌跡を読む』について</p> <p>第10回：ハワイの日系アメリカ文学</p> <p>第11回：中国系アメリカ文学の歴史</p> <p>第12回：中国系アメリカ文学・文化の政治学</p> <p>第13回：コリア系アメリカ文学の歴史</p> <p>第14回：コリア系アメリカ文学・文化の政治学</p> <p>第15回：フィリピン系アメリカ文学の歴史</p> <p>第16回：フィリピン系アメリカ文学・文化の政治学</p> <p>第17回：ヴェトナム系アメリカ文学の歴史</p> <p>第18回：ヴェトナム系アメリカ文学・文化の政治学</p> <p>第19回：南アジア系アメリカ文学の歴史</p>			

第20回：南アジア系アメリカ文学・文化の政治学
第21回：アジア系アメリカ文学の多様なジャンルと政治学
第22回：アジア系アメリカ演劇・パフォーマンス
第23回：アジア系アメリカ人の詩
第24回：アジア系アメリカ児童文学
第25回：アジア系アメリカ文学にみるアイデンティティ表象とポリティクス その1
第26回：アジア系アメリカ文学にみるアイデンティティ表象とポリティクス その2
第27回：『「場所」のアジア系アメリカ文学』を読む
第28回：『憑依する過去——アジア系アメリカ文学おけるトラウマ・記憶・再生』を読む
第29回：トランスボーダー化するアジア系英米文学から世界文学へ
第30回：21世紀におけるアメリカ文学研究の課題と展望

準備学習：

毎授業でディスカッションするためにテキストおよび参考文献を必ず読んでおくこと。（約2時間）
復習として、毎授業で明らかになる課題についてさらに調査・研究を深めておくこと。（約1時間）

テキスト：

開講時に指示する。適宜、資料などを配布する。

参考書・参考資料等：

開講時に指示する。

学生に対する評価：

ディスカッション(20%)、プレゼンテーション(20%)、レポート (60%) による総合評価。
(各授業における課題やレポートに対してはフィードバックを行う)

授業科目名：英文学研究	単位数：4 単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：谷田恵司
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>到達目標：英語で書かれた小説のテキストを正確に読みとり、その作品の持つ文化的歴史的背景を踏まえて的確に解釈し、深く理解する。</p> <p>テーマ：L・P・ハートリー作品研究</p>			
<p>授業の概要</p> <p>イギリスの小説家L・P・ハートリーの作品を研究する。代表作の一つである <i>Eustace and Hilda</i> 三部作の第一作 <i>The Shrimp and the Anemone</i> を読む。この長編小説では、子供の心理、姉と弟の関係、階級制度などの問題が、物語の中で詳細かつ鮮明に描かれ分析される。そうした点を念頭に置きながら、当初は主にテキストを精読して行き、その後は担当者の発表を中心にして討論や質疑応答を交えて授業を進める予定である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション。授業概要等の説明。</p> <p>第2回：第1章 (1) 受講生の発表 (ハートリー)</p> <p>第3回：第1章 (2) 受講生の発表 (時代背景)</p> <p>第4回：第1章 (3) 受講生の発表 (階級制度)</p> <p>第5回：第2章 (1) 受講生の発表 (学校制度)</p> <p>第6回：第2章 (2) 受講生の発表 (室内遊戯)</p> <p>第7回：第2章 (3) 受講生の発表 (屋外遊戯)</p> <p>第8回：第3章 (1) 受講生の発表 (家庭内使用人)</p> <p>第9回：第3章 (2) 受講生の発表 (馬車と社会的地位)</p> <p>第10回：第3章 (3) 受講生の発表 (海辺への転地療養)</p> <p>第11回：第4章 (1) 受講生の発表 (精神分析)</p> <p>第12回：第4章 (2) 受講生の発表 (イギリスの親子関係)</p> <p>第13回：第4章 (3) 受講生の発表 (姉や妹の力)</p> <p>第14回：研究論文を読む</p> <p>第15回：前期まとめ</p> <p>第16回：後期の始まりにあたって。前期復習、受講生の発表指導等。</p> <p>第17回：第5章 受講生の発表 (大英帝国)</p> <p>第18回：第6章 受講生の発表 (植民地)</p> <p>第19回：第7章 受講生の発表 (イギリス海軍)</p> <p>第20回：第8章 受講生の発表 (ハートリーの他の作品 長編小説)</p> <p>第21回：第9章 受講生の発表 (ハートリーの他の作品 短編小説)</p> <p>第22回：研究論文を読む</p> <p>第23回：第10章 受講生の発表 (同時代の作家たち 1)</p>			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第24回：第1 1章 受講生の発表（同時代の作家たち 2）
第25回：第1 2章 受講生の発表（語り手の位置）
第26回：第1 3章 受講生の発表（文学作品における子供像）
第27回：第1 4章 受講生の発表。小論文の書き方（1）
第28回：第1 5章 受講生の発表。小論文の書き方（2）
第29回：討論。小論文題目発表。
第30回：まとめ。

準備学習：

テキストを精読し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

発表の担当者は必ずハンドアウトを作成すること。

テキスト：

The Shrimp and the Anemone (L. P. Hartley) その他、配布資料

参考書・参考資料等：

適宜指示する

学生に対する評価：

平常点、授業内発表、期末小論文等を総合的に評価する

授業科目名：米文学研究	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： 並木有希
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマに沿って米文学の原書を精読し、英語表現、作品のテーマ、および時代背景について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>都市と文学をテーマに、19世紀半ばから現代までのニューヨークを扱った作品を時系列に沿って鑑賞する。近代ニューヨークにおいては、急激な摩天楼の発達、移民の流入があり、世界に類を見ない重層的で複雑な都市空間が成立した。文化表現が都市の発展をどのように表象したのかを考察する。</p> <p>小説を中心とし、詩、戯曲、他の芸術作品なども紹介することで、包括的な理解を進める。</p> <p>詳しい内容については開講時に指示する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入：都市と文化表象</p> <p>第2回：19世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第3回：19世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第4回：19世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第5回：19世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第6回：19世紀の文化・歴史背景等</p> <p>第7回：19世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第8回：19世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第9回：19世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第10回：19世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第11回：19世紀の文化・歴史背景等</p> <p>第12回：20世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第13回：20世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第14回：20世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第15回：20世紀のニューヨーク小説①</p> <p>第16回：20世紀前半の文化・歴史背景等</p> <p>第17回：20世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第18回：20世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第19回：20世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第20回：20世紀のニューヨーク小説②</p> <p>第21回：20世紀後半の文化・歴史背景等</p> <p>第22回：20世紀のニューヨーク小説③</p> <p>第23回：20世紀のニューヨーク小説③</p> <p>第24回：20世紀のニューヨーク小説③</p>			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第25回：20世紀のニューヨーク小説③
第26回：9.11事件とニューヨーク
第27回：21世紀のニューヨーク小説
第28回：21世紀のニューヨーク小説
第29回：21世紀のニューヨーク小説
第30回：まとめ

準備学習：

毎授業で扱う範囲を予習し、授業後に小レポートをまとめること。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書・参考資料等：

上岡伸雄『ニューヨークを読む』その他適宜指示する。

学生に対する評価：

平常点、授業内発表、期末レポート

授業科目名： 英米文化研究	単位数： 4 単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： 原恵理子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英米をはじめとする英語圏の文化に関する歴史的知識を深めることができる。 2) 文化に注目するために、カルチュラル・スタディーズについて学び、実践できる。 3) 英米の文化という切り口から、異文化理解教育についても議論する。異文化間コミュニケーション能力養成における文化の諸相を浮き彫りにして、授業実践における留意点と課題を明らかにできる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まず「文化とは何か」という定義と特徴を考える。曖昧なまま使われる「文化」という用語と考え方もつ概念や理念の機能や変遷について学ぶ。文化が今日に至るまでにどのような変容を遂げているのかについて検証し、イギリスとアメリカ双方の文化史の知識を深める。とくに最近のカルチュラル・スタディーズの研究動向を踏まえたうえで、比較文化、コミュニケーション、異文化間交流、多文化理解、ジェンダー、人種、民族、国家の観点から文化研究の理論や実践の方法を身につける。</p> <p>(学位授与方針) 英語文化に関する研究能力を有した視野の広い総合力を持った人材の養成を目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： テリー・イーグルトンの『文化とは何か』を読む</p> <p>第2回： 第一章 文化の諸相</p> <p>第3回： 第二章 危機にある文化</p> <p>第4回： 第三章 カルチャー・ウォーズ</p> <p>第5回： 第四章 文化と自然</p> <p>第6回： 第五章 共通文化に向けて</p> <p>第7回： イギリスにおける風土・伝統・文化圏</p> <p>第8回： カントリーハウス・ガーデニングの文化</p> <p>第9回： イギリスの身体文化と表象</p> <p>第10回： イギリスのミュージアムの文化</p> <p>第11回： イギリスの児童文化</p> <p>第12回： イギリスのジェントルマンの文化</p> <p>第13回： イギリスの女性と文化</p> <p>第14回： アメリカの表象文化——映画</p> <p>第15回： アメリカの表象文化——音楽</p> <p>第16回： アメリカの表象文化——演劇・パフォーマンス</p> <p>第17回： アメリカの表象文化——ミュージカル その1</p> <p>第18回： アメリカの表象文化——ミュージカル その2</p> <p>第19回： アメリカの表象文化——ミュージカル その3</p> <p>第20回： アメリカの対抗文化</p>			

第21回：アメリカ文化と多文化主義

第22回：文化・コミュニケーション・多文化理解 その1

第23回：文化・コミュニケーション・多文化理解 その2

第24回：アメリカ文化とエスニシティ——アジア系アメリカ文化 その1

第25回：アメリカ文化とエスニシティ——アジア系アメリカ文化 その2

第26回：表象文化にみるジェンダー・人種・エスニシティ

第27回：グローバリゼーションと文化の政治

第28回：文化の諸相と異文化理解教育

第29回：21世紀における文化研究の課題と展望——その1

第30回：21世紀における文化研究の課題と展望——その2

準備学習：

毎授業でディスカッションするためにテキストおよび参考文献を必ず読んでおくこと。(約2時間)

復習として、毎授業で明らかになる課題についてさらに調査・研究を深めておくこと。(約1時間)

テキスト：

開講時に指示する。適宜、資料などを配布する。

参考書・参考資料等：

開講時に指示する。

学生に対する評価：

ディスカッション(20%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(60%)による総合評価。

(各授業における課題やレポートに対してはフィードバックを行う)

授業科目名： 異文化コミュニケーション研究	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名：古家 聡
授業の到達目標及びテーマ 異文化コミュニケーションに関する理論や知見を学び、それらを知識として身につけ、獲得した知識をもとに自分の考えを発表し議論ができる能力を育成する。			
授業の概要 前期は、主に異文化コミュニケーション研究の分野で扱われる様々な基礎的な知識や理論について学び、理解を深める。後期は、主に実際に研究する場合の方法論を文献を読みながら習得する。学位授与方針にある「視野の広い総合力を持った人材の養成」につながる授業である。			
授業計画 第1回：イントロダクション（文化とは、コミュニケーションとは） 第2回：コミュニケーション・スタイルの理論 第3回：コミュニケーション・スタイルの問題点と留意点 第4回：価値観とは 第5回：価値観の研究法 第6回：時間感覚 第7回：空間感覚 第8回：接触 第9回：ジェスチャーとボディ・ランゲージ 第10回：表情 第11回：意思決定 第12回：親子関係 第13回：英語の特徴と日本語の特徴 第14回：語用論 第15回：前期のまとめ 第16回：ポライトネス 第17回：翻訳と文化 第18回：異文化の学び方 第19回：自己とアイデンティティ 第20回：異文化コミュニケーションの障壁 第21回：深層文化の探求 第22回：言語コミュニケーション 第23回：非言語コミュニケーション 第24回：カルチャーショック 第25回：教育と訓練 第26回：研究法のまとめと今後の課題			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第27回：論文の書き方

第28回：課題発表

第29回：課題のフィードバック

第30回：後期のまとめ

準備学習：

毎回、1時間以上の時間を使い、テキストの該当箇所を事前によく読んで理解しておくこと。

テキスト：

『コミュニケーション学（増補版）』（末田清子ほか著、松柏社）

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（石井敏・久米昭元ほか著、有斐閣）

参考書・参考資料等：

毎回、プリント等が配布されるので、必ず保存しておくこと。

学生に対する評価：

授業への参加態度（20%）、発表（30%）、課題（50%）とする。発表や課題については、フィードバックを行う。

授業科目名： 英語論文技法演習	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： トム・エドワーズ
授業の到達目標及びテーマ Writing a thesis, step by step			
<p>授業の概要</p> <p>This class will help students understand how to complete a thesis. Students will develop a thesis proposal and then develop this idea into a meaningful piece of writing. A particular focus will be placed on learning how to create clear paragraphs and then how to link these parts together in a logical manner. Additionally, students will work on recognizing and correcting common grammatical errors and review different means of organizing a text. The exact content of the class will depend on students' abilities and needs; therefore, the content of this syllabus may change in order to best help students complete their theses.</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Overview of class; developing a strong thesis</p> <p>第2回：Review parts of the paragraph: topic sentence, supporting sentences, and transitions</p> <p>第3回：Organizing principles: chronological & persuasive</p> <p>第4回：Organizing principles: compare and contrast; developing an outline</p> <p>第5回：Peer editing and review: persuasive paragraphs</p> <p>第6回：Writing clear sentences; avoiding ambiguity</p> <p>第7回：Varying sentence structure; identifying and using different sentence types</p> <p>第8回：Varying sentence structure; identifying and using different sentence types, continued</p> <p>第9回：Peer editing and review: compare and contrast essays</p> <p>第10回：Using concrete examples</p> <p>第11回：Purpose and parts of an introduction</p> <p>第12回：Peer editing and revision: introduction</p> <p>第14回：Transitions between paragraphs</p> <p>第15回：Common grammatical errors: misplaced modifiers</p> <p>第16回：Review</p> <p>第17回：Quoting, paraphrasing, and plagiarism</p> <p>第18回：Brevity and clarity—learning to cut to the core of your idea</p> <p>第19回：Active vs. passive voice; first person vs. third person</p> <p>第20回：Peer editing and revision: body</p> <p>第21回：Function of the conclusion; conclusion examples</p>			

30 シラバス 英語・英語教育研究専攻

第22回 : MLA style review

第23回 : Common grammatical errors: verb-tense consistency

第24回 : Choosing strong verbs

第25回 : Statements of fact, opinions, and hedging

第26回 : Peer editing and revision: conclusion

第27回 : Pronoun use and agreement

第28回 : Peer review and editing essays

第29回 : Choosing a title and writing an abstract

第30回 : Final peer review session and review

準備学習 :

Students will be expected to complete homework assignments and review the materials and topics of previous classes.

テキスト :

Writing Academic English by Alice Oshima & Anne Hogue (Longman)

参考書・参考資料等 :

Any additional materials will be provided by the teacher.

学生に対する評価 :

Students will be assessed mainly by their performance on in-class and assigned writing projects. The number of assignments will depend on student needs.

授業科目名： 英語論文技法演習	単位数：4単位	選択 (中・高専(英語))	担当教員名： ロバート・ジェイムス・ロウ
授業の到達目標及びテーマ To increase the ability of students to write clear, focused, and well-referenced academic writing.			
授業の概要 In this class, students will learn some of the key points of coherent and clear academic writing. They will learn first the elements of writing paragraphs with a focus on introducing, linking, and contrasting ideas. They will then be introduced to methods of referencing, and ways of avoiding plagiarism and paraphrasing sources.			
授業計画 第1回 – Introduction: Students will be given the course information. 第2回 – Identifying topics. 第3回 – Skills: Topic sentences/connecting words. 第4回 – Skills: Combining sentences with adjectives. 第5回 – Skills: Concluding sentences. 第6回 – Skills: Review. 第7回 – Skills: Expressing opinions. 第8回 – Skills: Hedging language 第9回 – Skills: Explanations and conjunctions. 第10回 – Skills: Expressing feelings. 第11回 – Skills: time expressions. 第12回 – Comparisons. 第13回 – Skills: “Hooking” questions 第14回 – Skills: Review. 第15回 – End-of-semester paper 第16回 – Semester two introduction 第17回 – Unpacking essay questions 第18回 – Planning essays 第19回 – Writing introductions 第20回 – Writing the body of an essay 第21回 – Writing conclusions 第22回 – Review 第23回 – Critical reading of articles. 第24回 – Referencing part 1 第25回 – Referencing part 2			

第 26 回 – Reporting verbs

第 27 回 – Plagiarism part 1

第 28 回 – Plagiarism part 2

第 29 回 – Review

第 30 回 – End-of-semester paper

準備学習（予習・復習等）

Students will be expected to complete homework assignments and review the materials and topics of previous classes.

テキスト

No textbook will be used. Materials will be provided by the teacher.

参考書・参考資料等

Any additional materials will be provided by the teacher.

学生に対する評価

20% Participation and class work.

40% Homework assignments

40% End-of-semester paper

授業科目名：研究指導 特別研究	単位数：4単位	必修	担当教員名：9名
<p>授業の概要</p> <p>英米を中心とする英語文学、言語、文化そして英語教育に関して、研究の実践、指導を行い、またこれらについて論文指導を行う。</p> <p>(小泉仁)</p> <p>小学校英語、小・中学校英語の連携、中学校・高等学校の授業方法、学習指導要領研究、検定教科書研究、諸外国の英語教育比較などの分野における研究を指導する。特に、多面的な文献研究と併せて、学生が研究対象とする校種での実践例に多く触れ、理論と実践の融合を図りながら、適切な実態調査の方法を指導する。</p> <p>(新井哲男)</p> <p>アメリカ文学に関心のある学生を対象に、個別に研究テーマを設定し、その研究テーマに関するテキストや論文を読みながら、考察や研究の仕方について指導する。</p> <p>(石塚倫子)</p> <p>この特別研究は、シェイクスピアを中心とした近代初期の作家および作品を取り上げ、個別のテーマのみならず、現代につながる文化批評として分析する指導を行う。</p> <p>(太田洋)</p> <p>授業を取り巻く様々な分野(小中高での教授法、学習法、教員研修、日本人学習者の習得過程、小中連携、カリキュラム開発、教材開発など)の研究を指導する。理論・研究と実践を結ぶバランスのある実践者・研究者になるための援助を行う。学生の研究テーマ、研究方法から論文作成まで、現場でのフィールドワーク等を含む多面的な視点から指導する。</p> <p>(原恵理子)</p> <p>表象文化研究の方法論を用いて、多民族社会における文化のポリティクスを研究課題とし、アメリカ研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(谷田恵司)</p> <p>イギリス近現代の小説を中心とする文学作品を取り扱う。作品や作家のみならず、作品の生み出された時代の思想や社会情勢等をも踏まえて問題を設定し、考察し論述することを目指して研究指導を行う。</p>			

(鈴木繁幸)

語用論の概念研究と、それを通じたレトリックに関し論理的に論証するための指導となる。

(田頭憲二)

英語教育を含む、第二言語習得にかかわる諸現象や課題を扱う。特に、特定の研究テーマに関する先行文献を批判的に分析するとともに、リサーチデザイン、データ収集方法等に関する研究計画およびデータ分析に関する研究指導を行う。

(根本貴行)

統語論に関する枠組みで、英語の構文や言語現象を考察していく。言語の普遍的な側面を見ていきながら、日英語の比較対照も行い、論文の作成をしていく。